

県立新発田病院だより

第55号 2016年3月発行

新潟県立新発田病院

〒957-8588 新発田市本町 1-2-8
TEL.0254-22-3121 FAX.0254-26-3874
<http://www.sbthp.jp/>

【当院の基本理念】

1. 県北の急性期高度医療を担い、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんに優しく安全で信頼される病院を目指します。
3. 保健福祉・医療機関と連携して地域の基幹病院としての役割を担います。
4. 教育・研修を積極的に行ない、医療の未来に貢献できる人材を育てます。

目次

- P 1. 巻頭言：20年間の新発田病院勤務－患者さんとともに－
P 2. 病院トピックス：PET/CT棟の開設にあたり地域の皆様へ
P 3. 研修を振り返って・ミニクイズ
P 4. 患者さんの声、患者さんの権利、編集後記

20年間の新発田病院勤務 －患者さんとともに－



新発田病院 院長 堂前 洋一郎

この3月で20年間勤務していた新発田病院を定年退官することになりました。これまで大きな事故もなく定年を迎えられるのはスタッフの皆様をはじめ多くの支えがあったからと感謝申し上げます。

特に、整形外科のなかで専門とする股関節外科の患者さんには赴任当初から支えていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。変形性股関節症の患者会「たんぼぼの会」は赴任した平成8年に結成され、その後、患者さんの悩みの解決、講演会の開催などいろいろな方面で活躍されています。講演会、食事会などに誘われ、患者さんから直接生の声を聞く機会を与えてくださったことは、大変意義深いものでした。時間のない外来診療では決して気づくことができない言葉に接することができました。特に、股関節の疾患は徐々に進行していくものですが、決して命にかかわる病気ではありません。生の声は手術の不安、患者さんの背景などがよくわかり、手術時期や、手術の方法などの決定に生かすことができました。

この20年間、力を注いだことは救急システムの構築でした。救命救急センター長として新病院になってからは地域の中核病院とし

て、また、患者さんに信頼される病院として救急システムを構築しようと努力してきました。今まで旧病院では当直は医師一人でした。臨床研修医の受け入れが始まってからは、研修医を含め医師が5人当直するようになり、土日の忙しい時間帯は医師が6名当直しています。各科の医師も30分以内に来院できるように拘束体制も整えてきました。特に救急車の受け入れでは、病院が満床で入院できない状態や、救急車が重なって人手が足りない以外はすべて受け入れ、また、他の医療機関がやっていない深夜帯などは受付に来院した患者さんはすべて受け入れてきました。しかし、病院の医師数も十分でなく、当直医師がまだ不足しており、患者さんに満足いただけるような救急体制とはいえません。今後の後輩の努力でさらに住民の皆様にご信頼され、安心な病院を目指していただきたいと思います。

最後に県立新発田病院を去るにあたり、改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。





PET/CT棟の開設にあたり地域の皆様へ

放射線科 中川 範人



「PET（ペット）」という検査をご存知でしょうか？ PETとは、Positron Emission Tomography（陽電子放出断層撮影）の略で、放射性薬剤を用いる核医学検査です。体内に取り込まれた薬剤から放出される放射線を特殊なカメラで捉えて全身のがんの有無を調べる検査です。がん細胞は正常の細胞に比べてブドウ糖を3から8倍多く取り込みます。PETはその性質を利用して体の中でブドウ糖が異常に多く利用されている部位を探し出します。

CTなどの画像検査では、通常は頭部、胸部、腹部などと部位を絞って検査を行いますが、PETは全身を一度に調べることができます。またCTは病気を形態で評価しますが、PETはがんの活動性も調べることができます。

新潟県では平成22年度から新潟県立がんセンターがPET検査を行っていましたが、平成27年度から新潟県地域医療再生計画に基づいて新潟大学医歯学総合病院と長岡赤十字病院と新潟県立中央病院（上越市）がPET検査を始めました。新発田病院も同計画の一環としてPET/CTを導入し3月から稼働します。

当院で導入されたPET/CTとはPETとCTを同時に撮影する装置です。「活動しているがん細胞」の画像と臓器の位置や形の画像を

重ね合わせることで、がんをより詳しく診断をすることができます。がんの伸展範囲を正確に診断したり、思いがけないがんを発見することで一番適切な治療を選択することができますようになります。あるいは治療後の再発を見つけることも容易になります。悪性リンパ腫ならば治療効果の評価をPET/CTで行うこともできます。

このたびのPET/CTの導入は地域がん診療連携拠点病院として県北のがん診療の質を一段と高めるものと考えています。また本検査のために今まで新潟市あるいは県外に行かざるを得なかった方々の負担も軽くすることができるのではないかと期待しています。

これからも皆様の健康と地域医療の向上を目指して邁進してまいります。



研修を振り返って

臨床研修医 坂 爪 佑 輔

新発田病院で働き始めた日から、もうすぐ2年が経とうとしています。子供の頃、私は両親に連れられ新発田に何度か遊びに来たことがあり、子どもながらに好きな街でした。新発田病院は、毎日数多くの患者さんが訪れることから研修は多忙と言われており、その経験を通じて一人前の医師としての研鑽を積めると思い、研修を志望しました。採用が決まり、休日に街にでかけてみると、城下町独特の風景や歴史ある町並みが大変好きになり、私に勇気と希望を与えてくれました。

キラキラした気持ちで4月を迎えましたが、仕事が始まってみると採血、カルテの書き方、薬の名前など、何もかもたどたどしく、学生時代のわずかな自信は初日で消えました。患者さんの眼には、私の笑顔は不自然に写っていたかもしれません。緊張と不安の中働いていたある日、退院を迎えた患者さんから、お手紙を頂きました。半紙に丁寧に感謝の言葉が書かれており、患者さんからの感謝を通じてはじめて、自分が上の先生や看護師さんをはじめとした周りのスタッフに支えられていることを実感しました。患者さんは、きっと研修医である私を通して、新発田病院への感謝の気持ちを書いたのではないかと思います。

同期ら研修医にも恵まれ、忙しくも楽しい新

発田病院での2年間はあっという間に過ぎ、非常に多くの経験や勉強をさせて頂きました。働き始めた頃の自分を思い返すと、研修を通じて少しは一人前の医師に近づけているのかなと思っています。まだまだ何かと未熟な部分が多いですが、2年間の経験を糧に、4月から大学病院でもまた精一杯頑張ろうと思います。新発田を離れるのは心寂しいですが、いつか新発田病院で働く機会があれば、その時は一回り二回り大きくなった姿をお見せできればと思います。最後になりますが、同期研修医を代表し、感謝を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。



五十肩の対処法として正しいのはどれでしょう。

1. 痛みが治まるまで動かさず安静にする。
2. 痛みは我慢しながら、頑張っで動かすようにする。
3. 無理のない範囲で動かし、楽になってきたら徐々に動かす範囲を拡大していく。

回答は4ページにあります。



投書箱から

《患者さんの声1》

検査入院の2、3日なら車の駐車を可能にしてください。

《回答1》

当院の駐車場は外来患者さんや面会される方の一時駐車専用となっており、長時間の駐車はご遠慮いただいております。限りある駐車スペースの有効利用のため、ご理解をお願いします。

《患者さんの声2》

テレビを見るときはイヤホンを使ってほしい。職員から注意をお願いします。前に入院したときに言われた立場でした。

《回答2》

この度は不快な思いをお掛けし、大変申し訳ありませんでした。入院時オリエンテーションでイヤホンの使用をお願いしております。また、個室の場合は扉を閉めたり、音量を調整する等の協力を頂いております。今回は対応が遅れご迷惑をお掛けしました。今後は快適な療養環境となりますよう速やかに対応いたします。

《患者さんの声3》

先生方、看護師さん方、3ヶ月という長い長い間大変お世話になりました。いつも温かく、困っているときはやさしく声をかけてくれました。ここまでこれたのは皆様のおかげです。職員の皆様本当にありがとうございました。

《回答3》

温かいお言葉ありがとうございました。日々看護をしている私たちにとって、とてもうれしく力になります。今後とも患者さん、ご家族に寄り添った看護の提供を心掛けてまいります。

患者さんの権利

- 患者さんならびにご家族は、患者さんの病状、医療の内容につき十分な説明を受けることができます。そのうえで患者さんは、自らの希望する最適な治療を選択する事ができます。
- 患者さんは、プライバシーを守られ、個人として尊ばれる権利があります。国籍、人種、信条、社会的身分、経済的状態などによる差別を受ける事はありません。
- 患者さんは、安全で快適な療養環境の提供を受けることができます。また患者さんならびにご家族は、自らの希望・意見を述べる事ができ、それを尊重される権利があります。

ミニクイズ ～回答と説明～

正解 3

五十肩は、自然に治ることもありますが、放置すると関節の動きが悪くなり、日常生活が不自由になる場合があります。痛みが強くない程度であれば、日常生活などである程度肩を動かすのがよいでしょう。



編集後記

雪のないお正月で今年はずっとと違う？と思ったのもつかの間、あっという間に雪は積もり、例年のようにインフルエンザが猛威を振るいました。しかし、だんだんと陽射しも暖かくなり春は近づいています。桜が楽しみです。

《編集委員》

渡部 和敏	三井田 博	浅野 堅策	齋藤和歌子	齋藤 操	菊池 美紀
五十嵐啓子	遠藤 陽子	和田 恵梨	片岡 吉和	小見 正之	柴田 貴博